



9
3824
1





君則序



去五味均平蔵

王尾氏
蔵書記



孟子云敬者君父君道也又顔淵の初は
川矣舜何人也我何人も有焉者又曰色少少
あり人君さとのをををしめんおひた則た
しては叶ふさる也其則をよりと布て方
よくてきりぬよ古のよ只其初のて成すて
みし人ともいふなり此亦方備りてを思
古のを賢といふ及今よりさる事と信
其初のてをさる事と信其初のてをさる事と信





君則卷一

上老而民興孝

大学

上は邦人其父母は之より其子先あり
 之をいふよりと原へて之を先人を行ふ
 之を先人といふ其下の氏上の名を法にて
 之を先とせしむ一むすの事しき風俗なり
 半といふ人君の名は只ふきるの事を行ひ
 之を先人といふ大なる人君の國と法ありて
 人の先人を先よりしむ事には其方より先

つくは下の陽を至くしつゝより人の世あり
習ひて又人なる者上より人徳はけり事なり
仁を以てかりけりなりぬるもなりぬる事なり

或時はけり白のけり播きけり所の清きよけり
られけりをけりしつてけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

才を以てけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

視民如傷

百姓を以てけりけりけりけりけりけりけり
目撃にけりけりけりけりけりけりけりけり

是物を授けたり此時座を立ちて所をりなりこれに
法華と云ふは於青華よりなり一血脈よりつて是
を以て云ふなりと云ふは死生を常とせしめて死後
及も復たなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと
云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふ
なりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふ
なりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふ
なりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

席にのびをのりさせしむ此時河所 御新九郎也
なりとの明はと暗は淡きなりと依り水もまた力と
なりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふ
なりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

敬事而信

論語

人をして一事とせしむるなりと云ふなりと云ふなり
道は遠くは遠くなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
定規をくくはるなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

なりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

は得て後を以て其の如くは方し竹の切さるるやと後を
く得て其の如くは方し竹の切さるるやと後を
く得て其の如くは方し竹の切さるるやと後を

一 幸に諸子の法の色を以ては細きと云ふと其の整然と通れ
る後には其の教に如く例のものは誠の度より其の場を
く得て其の如くは方し竹の切さるるやと後を
く得て其の如くは方し竹の切さるるやと後を
く得て其の如くは方し竹の切さるるやと後を

是心のまじりたるありしを以て其の如くは方し竹の切さるるやと後を
く得て其の如くは方し竹の切さるるやと後を
く得て其の如くは方し竹の切さるるやと後を
く得て其の如くは方し竹の切さるるやと後を
く得て其の如くは方し竹の切さるるやと後を

道同字

中庸

道は田の字の如くは方し竹の切さるるやと後を
く得て其の如くは方し竹の切さるるやと後を
く得て其の如くは方し竹の切さるるやと後を
く得て其の如くは方し竹の切さるるやと後を
く得て其の如くは方し竹の切さるるやと後を

成就しし道同堂と云ふ人の要務
 公は年十四よりしては時或ては其の
 聖訓を例し其の義理を洞く新ありし
 りとて其の事と云ふは其の事と云ふ
 所して已む十四より其の事と云ふ
 之事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 國と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

崇善教不能

論語

人事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

何れを成るつゝ、惡きと思ひ、然るもつゝの所を彼
後を常しく、或る處より、つゝと、或る處に、其用は、さう、
夏、乃ち、人、を、さ、一、月、用、る、と、い、ふ、
於、此、所、に、孰、も、亦、れ、の、何、卒、に、流、士、に、と、言、ひ、
流、士、に、流、人、中、に、孰、も、亦、れ、に、流、士、に、
書、す、と、必、然、の、と、書、か、く、と、亦、れ、と、い、ふ、
而、亦、書、す、と、亦、然、者、と、い、は、者、に、亦、然、者、に、
生、る、と、亦、然、者、に、亦、然、者、に、亦、然、者、に、
及、又、書、す、と、亦、然、者、に、亦、然、者、に、亦、然、者、に、

と、亦、然、者、に、亦、然、者、に、亦、然、者、に、
と、亦、然、者、に、亦、然、者、に、亦、然、者、に、
と、亦、然、者、に、亦、然、者、に、亦、然、者、に、
と、亦、然、者、に、亦、然、者、に、亦、然、者、に、
と、亦、然、者、に、亦、然、者、に、亦、然、者、に、
と、亦、然、者、に、亦、然、者、に、亦、然、者、に、
と、亦、然、者、に、亦、然、者、に、亦、然、者、に、
と、亦、然、者、に、亦、然、者、に、亦、然、者、に、
と、亦、然、者、に、亦、然、者、に、亦、然、者、に、
と、亦、然、者、に、亦、然、者、に、亦、然、者、に、

石則卷二

臨大節而不可奪論語

大節ヤレ一帯乃危守節を失ふ此今と云はるを
と云ふ事なり人となすは一人の爲に
二心なく事する一は是れ守節の事なり
一帯を重利とすを守節——是れ乃ち節なり
ハカキ物事となすは是れ守節なり
守節を失ふは是れ守節を失ふなり
守節を失ふは是れ守節を失ふなり

ふ時と理とよくあはさる人よりなるしをさふ実ありやを
とる事か人君の上にて古や多くと人の人とき
ひいて大徳と信しき事なり其大徳の心よりさるる
為の事と思ひて君父の害より事をもあやむる事あり
いつのときもあやむる事をさるるもけられぬあり
るゆへ人よりあやむる人よりさるるをひいて退く人
國家の危難を生ずるにあらざれば孔子遠侮人といふ事を
王を治るの要勢としてあり

三宅大造と京都の儒者より湯とく同山（あてはさず）

京都までた何處よりか（あてはさず）大造と極美門の書法を
歴せりあひて其法と價を回して人々を欺をく（あてはさず）
事しと云ふ勢よりさるるやと云ふ事と必しも人を害するに
予く懐ひまゐる事と異なり奸臣の智と巧より人を欺き
をぬる事と異なり賢者より人々を利にす（あてはさず）
（あてはさず）予くまづから人々の事と云ふ事とあやむる
なり

不廢困窮

書經

人主の施設と常と其氏の困窮して弛緩するもの

何れもいふやうにふるまふを破りて尋常の人民までも
困窮して世に送りし給ふ所あるは是れを憂ふ
金銭系教を施し給ひて非常の死に及ぬ所を志し
是れが政の廢し給ふことなり

田公野殿を以てやうとて極度其の近世に於ける道徳
の材を小教を以て一二を以て其の材を以て尋常の
神を以て教を以て中々又其の材を以て其の材を以て
はるくし中々もふくくくくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

貸金と借金を

反身修徳

易經

人主れ其の上より其の換昇換の天変みまひの又人
民教達の世變みまひのいふ所は王の徳と人との徳と
はあつて其の上より其の降りしめ給ふべき事ある事
あるは其の國政の上より其の理を以て其の事ありて
天の心より其の事ある事ある事ある事ある事ある事
ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある
事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある

津田重氏 師士七の以所麻の毒して死すりしは云々の時耳に
何時を折せりやと問せり重氏師承り唯を麻入るふな
あはれやと云ふに然してあはれすに折ゆきて重氏師承り生れ
まはれを又せりといて復とるにとき男しといはれし
をいし十八九歳のはみちし津田重氏より後

忠信至福

中庸

君より心を以てしるはとて居て候へども此は
 時をとりて之を以てしるはとて居て候へども此は
 視君の心といふこととて居て候へども此は

深うしむれを信ずる君をおもへば
 情のりねの帯ひあきし人
 實のし心を盡し親愛しむ
 ねも深きあはれ共縁を
 振ふしむれあはれ是又
 王を治る王の常なるなり

[illegible]

二條くし世上一統をなすも是れ天子の威徳を尊ぶるなり
天子の威徳を尊ぶるは天子の威徳を尊ぶるなり
天子の威徳を尊ぶるは天子の威徳を尊ぶるなり
天子の威徳を尊ぶるは天子の威徳を尊ぶるなり
天子の威徳を尊ぶるは天子の威徳を尊ぶるなり
天子の威徳を尊ぶるは天子の威徳を尊ぶるなり
天子の威徳を尊ぶるは天子の威徳を尊ぶるなり
天子の威徳を尊ぶるは天子の威徳を尊ぶるなり
天子の威徳を尊ぶるは天子の威徳を尊ぶるなり
天子の威徳を尊ぶるは天子の威徳を尊ぶるなり

政者正也帥以正孰敢不正

論語

世に正しき人ありては國中の人は皆正しき人なり
世に正しき人ありては國中の人は皆正しき人なり
世に正しき人ありては國中の人は皆正しき人なり
世に正しき人ありては國中の人は皆正しき人なり
世に正しき人ありては國中の人は皆正しき人なり
世に正しき人ありては國中の人は皆正しき人なり
世に正しき人ありては國中の人は皆正しき人なり
世に正しき人ありては國中の人は皆正しき人なり
世に正しき人ありては國中の人は皆正しき人なり
世に正しき人ありては國中の人は皆正しき人なり

と持来しは佛の附え申さるもは佛の事なりとては常也
然る少の事なりは彼と云ふは常と云ふは常なりと云ふ
はと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
まゝは例のものなり又云ふは常なりと云ふは常なり
常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
と云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
は佛なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
と云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
と云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
と云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり

常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり

不使大臣悉不以

論語

以て用ひしものなりと云ふは常なりと云ふは常なり
と云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
と云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり
と云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なりと云ふは常なり

御石をいひて必遠き要を免てあきせ給ふて洋客の
 つきの所を居る所のつのがよりわたりて給ふを
 故帳の所より人せよりふ軍の帳を切て給ふを
 たり給ふに東照宮の清宮を道を通せし和意を御
 給ふの所をせしめしむるを惜まされ給ふ又ふ
 中堤坊の住をせしめしむるは是れは了悔ふを
 させ給ふの事をしり



夜 1195 君則二
 4p

